



SPODフォーラム2025

教学マネジメント・内部質保証に
寄与する学生参画の実践とは
Input1

淑徳大学 荒木俊博

2025年8月27日



自己紹介

淑徳大学 大学事務局長室 課長（～2025年8月）

●近年の仕事

FD及びSD・各種調査（授業アンケートや卒業時調査）・遠隔授業環境整備・私立大学等改革総合支援事業、数理・データサイエンス・AI教育、全学共通基礎教育科目、執行部会議や教学関連全般（教学マネジメント）・大学間連携、DX推進、教育研究支援センター、教職課程申請、IR（副担当）

○業績等

- ・荒木俊博・下山昭夫（2024）「淑徳大学におけるボトムアップ志向の教育改革 コミュニケーション重視の教学マネジメント」大森不二雄（編），『大学における教学マネジメント2.0』,東信堂,212-222.
- ・荒木俊博（2024）「日本の大学における学生参画の現状と質保証に資する為の要素の検討」『淑徳大学高等教育研究開発センター年報』（11）93-106.
- ・荒木俊博(2023)「日本の大学における外部評価の現状と課題ー内部質保証に資する外部評価に関する全国大学調査からー」『淑徳大学高等教育研究開発センター年報』（10）121-133.

○発表等

- ・荒木俊博・山咲博昭（2024）「内部質保証に資する学生参画活動の要件・課題・効果に関する研究」大学教育改革フォーラム2024.
- ・山咲博昭・岩野耶・白藤康成・堀佑二・井上一成・荒木俊博（2024）「教学マネジメントを深化させるためのチェックリストの開発」大学教育改革フォーラム2024.

○外部研究費等

- ・教学マネジメントの推進基盤に係る総合的研究 日本学術振興会: 科学研究費助成事業 基盤研究(C) 2024年4月1日 - 2029年3月31日
山咲 博昭, 荒木 俊博, 岩野 摩耶, 白藤 康成, 齋藤 渉
- ・学生の声を生かす内部質保証の推進モデルに関する研究 日本学術振興会: 科学研究費助成事業 研究活動スタート支援 2024年7月31日 - 2026年3月31日 荒木 俊博
- ・内部質保証の有効性を高める為の学生参画の研究 日本学術振興会: 科学研究費助成事業 奨励研究 奨励研究2023年4月1日 - 2024年3月31日 荒木 俊博



1. 学生参画とは
2. 学生参画が注目される背景
3. 学修成果に関する理論
4. 学生参画はどのように行われているか



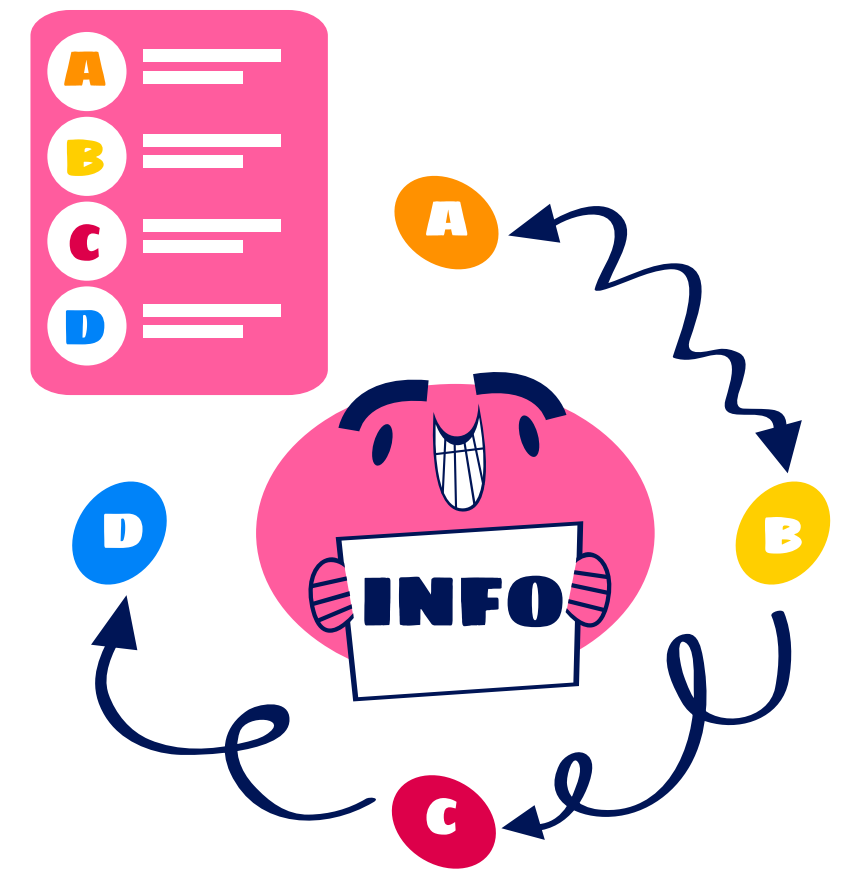
学生参画とは

学生参画とは何をイメージしますか？

大学にとって重要なステークホルダーである学生の参画活動はどのようなものをイメージしますか？

例：アドミッションスタッフ、広報スタッフ、SA・TA、学生副学長、大学の環境構築・支援、FD、ファンドレイジング、外部との接続

学生参画とは，①学生個人および同輩の学習成果を最大化する目的で，または，②大学教育の質を保証・向上させる目的で，あるいは，③大学運営に学生・大学・社会の利益を反映させる目的で，学生が自らの労力や情報を大学に提供することである。（田中,2018）



学生参画が注目される背景

学修者本位の教育



学生が主体的に学び、その成果を実感できるような教育のために、大学が提供する教育課程が、学生の学びたいこと、身につけたい能力を達成できるように最適化されていること

(特に私学) 補助金



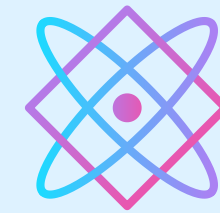
私立大学等改革総合支援事業タイプ1では、教育プログラム設計、大学運営や自己点検評価の過程において学生の意見を聴取や意思決定に参画する機会を設けることが求められている。

機関別認証評価



一部の認証評価機関では、評価の観点等において、学生の意見を収集することや要望等をくみ上げるシステムの導入を求めている。又認証評価にも学生の参加が重要になっている。

世界的な高等教育の質保証



欧州高等教育圏の構築を目指すボローニャ・プロセス（1999年～）において学生を「質保証のアクター」として位置づけ。また「欧州高等教育圏における質保証の基準とガイドライン」で明示

2040年に向けた高等教育のグランドデザイン（答申）（中教審第211号）

現在、高等教育機関で学んでいる学修者には、後続く学修者の学びも含めて高等教育が充実していくために、これから行われる高等教育改革に参画することを期待している。

【参考】機関別認証評価

公益財団法人大学基準協会（2024）

基準2 内部質保証

評価項目① 内部質保証のための方針を適切に設定していること。また、教育の充実と学習成果の向上を図るために、内部質保証システムを整備し、適切に機能させていること。

＜評価の視点＞（一部抜粋）

・学部、研究科その他の組織における自己点検・評価の客観性、妥当性を高めるために、学生の意見や外部の視点を取り入れるなどの工夫をしているか。

基準4 教育・学習

評価項目⑥ 教育課程及びその内容、教育方法について定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

・外部の視点や学生の意見を取り入れるなど、自己点検・評価の客観性を高めるための工夫を行っているか。

公益財団法人日本高等評価機構（2024）

基準2 内部質保証

基準項目 2－3．内部質保証の機能性

評価の視点 ① 学生の意見・要望の把握・分析、結果の活用

☐ アンケートや学生との対話をはじめとする、学修支援、学生生活、学修環境などに対する学生の意見・要望をくみ上げるシステムを適切に整備しているか。

☐ 学生の意見・要望の分析結果を教育研究や大学運営の改善・向上に反映しているか。

指定するエビデンス資料

☐ 学生の意見・要望をくみ上げ、教育研究や大学運営の改善・向上につなげるシステムを示す図など

☐ 学生の意見・要望のくみ上げを計画・実施する会議体の規則

【参考】私立大学等改革総合支援事業タイプ1

改革総合支援事業タイプ1から見る学生参画活動の大学の割合

R2までは設問で学生参画に関する内容はTA等の活動だけであったのが、R3から「教育プログラム設計、大学運営や自己点検評価の過程において学生の意見を聴取するなど、学生が大学等の意思決定に参画する機会を設けている」と教学マネジメントや自己点検・評価への学生参画を求めるようになった。なお、改革総合支援事業タイプ1に選定されている大学の殆どが取り組んでいる。

年度	申請校				選定校			
	N	1	2	3	N	1	2	3
R3	554	45%	25%	30%	117	91%	9%	0%
R4	539	52%	22%	26%	102	98%	2%	0%
R5	496	59%	41%		102	99%	1%	
R6	449	61%	39%		105	96%	4%	

山田（2021）による学生参加の分類

次元 \ 様態	情報源 Data Source	補助 Assitance	協同 Cooperation	主導 Leadership
機関 Institution	大学評価における学生インタビュー	機関評価	学生理事	（中性ボローニャ大学）
プログラム Program	学生調査	プログラム評価	共創カリキュラム	（金融危機後の英国・経済学部カリキュラム改革）
科目 Course	授業アンケート	フォーカス・グループ	授業評価のデザイン・分析	学生発案型科目

学生の4つの役割(A lani ska & Er iks son, 2006)

1. 情報提供者 (Information Provider)

学生は授業後や学期中にフィードバックを提供し、教育の質向上に貢献する。定量・定性の手法が使われ、簡易な手書きのコメントも有効とされる。

2. 行為者 (Actor)

学生はアンケートの作成や分析、ワークショップの運営など、能動的に教育改善プロセスに関与する。学生自身が課題を抽出し、教職員とともに解決策を検討する。

3. 専門家 (Expert)

学生は「学びの専門家」として、その学修経験をもとに教育の質を評価する役割を担う。教員と対等な立場で開発会議などに参加し、意見を求められる存在となっている。

4. パートナー (Partner)

学生と教職員が信頼関係を築き、教育の共同責任者として協働する。コーヒーブレイクやイベントを通じて日常的な対話が生まれ、質保証における本音の意見交換が促進される。

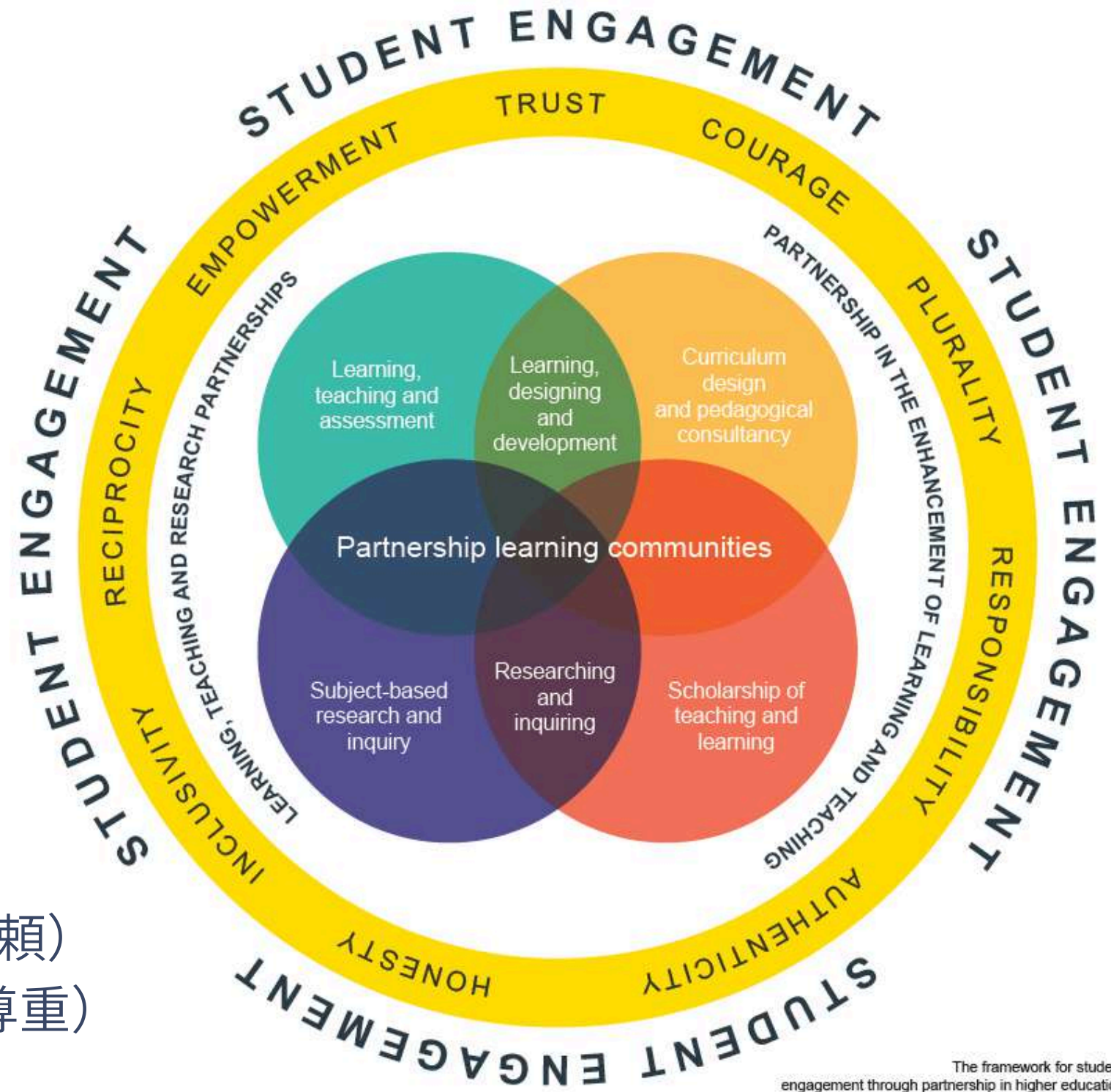
HEAの学生参画の枠組み

学生参画の枠組み(Higher Education Academy,2015)

- | |
|--|
| ①学習・教育・評価 (Learning, Teaching and Assessment) |
| ②科目に基づいた研究と探求 (Subject-based Research and Inquiry) |
| ③カリキュラム設計・教育コンサルティング (Curriculum Design and Pedagogical Consultancy) |
| ④教授法と学習に関する研究 (Scholarship of Teaching and Learning, SoTL) |

学生とのパートナーシップを通じて 成功する学生エンゲージメントを支える価値観

- Authenticity (真摯さ)、Honesty (誠実さ)
、Inclusivity (包摂性)、Reciprocity (相互性)
、Empowerment (エンパワメント)、Trust (信頼)
、Courage (挑戦する勇気)、Plurality (多様性の尊重)
、Responsibility (責任)



The framework for student engagement through partnership in higher education © Advance HE 2015. All rights reserved.

大学基準協会大学評価研究所他（2024）による調査結果として下記5分類に分けている。

- タイプA 非参画型・・・いずれの学生参画の取り組みも実施していない
- タイプB 間接型・・・授業評価アンケートや学習実態調査の実施のみ
- タイプC 協働型・・・学生と教員が協働してプログラムの評価を行う
- タイプD 関与型・・・学生が学内の委員会に発言権をもって関与する
- タイプE 意思決定参画型・・・学生が大学の意思決定機関に決議権を持って関与する

学生参画のタイプ別にみる割合

	度数	%
非参画型	24	6
間接型	334	84.1
協働型	29	7.3
関与型	9	2.3
意思決定参画型	1	0.3
合計	397	100

出典：大学基準協会大学評価研究所他（2024）

設置形態別にみる学生参画のタイプ

	非参画型	間接型	協働型	関与型	意思決定 参画型	合計
国立	3.8%	69.2%	17.3%	9.6%	0.0%	100.0%
公立	4.2%	87.5%	6.3%	2.1%	0.0%	100.0%
私立	6.7%	86.2%	5.7%	1.0%	0.3%	100.0%

出典：大学基準協会大学評価研究所他（2024）

調査概要

- ・ 2024年3月に全国の大学へ郵送にて依頼し、WEBでの回答を依頼した「内部質保証の有効性を高める為の学生参画に関する全国調査」
- ・ 主な質問項目は「1. 学生参画活動の内容、きっかけ及び目的について」「2. 学生参画活動の概要と実施について」「3. 参加する学生について」「4. 学生参画活動の活用について」
- ・ 回答大学数 165大学（うち、国立29大学、公立29大学、私立107大学）

調査結果からみる学生参画①

学生参画は授業やカリキュラム等に関するものになると実施割合が下がっている。

取組内容	国立（n=29）	公立（n=29）	私立（n=107）	計（n=165）
授業アンケートを実施している	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%
学生の学修もしくは生活の実態を把握する学生調査を実施する	96.60%	75.90%	90.70%	89.10%
大学全体の教育改善に資することを目的とした学生へのヒアリングする	55.20%	13.80%	36.40%	35.80%
授業の点検・評価の為に学生にヒアリングする	20.70%	17.20%	19.60%	19.40%
授業の点検・評価に授業担当教員と学生が協同して行う	6.90%	0.00%	2.80%	3.00%
学位プログラム（教育課程）の自己点検・評価への学生が参加する	20.70%	10.30%	3.70%	7.90%
カリキュラム作成・変更時への学生が参加する	20.70%	0.00%	2.80%	5.50%
自己点検・評価をする際に学生が意見を述べる	17.20%	3.40%	1.90%	4.80%
大学の運営に関する会議への学生が参画し、意見や要望を述べる	13.80%	0.00%	6.50%	6.70%
学生発案型科目を実施する	10.30%	0.00%	1.90%	3.00%

調査結果からみる学生参画②

内部質保証や自己点検・評価より、カリキュラムの点検・評価に関わる大学が多い

	i) 学生から情報提供をしてもらう	ii) 学生が一緒に点検・評価を行う	iii) 学生が一緒に改善案の策定・実施を行う
①内部質保証への参加	17.14%	5.71%	2.86%
②大学全体の自己点検・評価への参加	17.14%	0.00%	2.86%
③カリキュラムの点検・評価への参加	31.43%	22.86%	11.43%

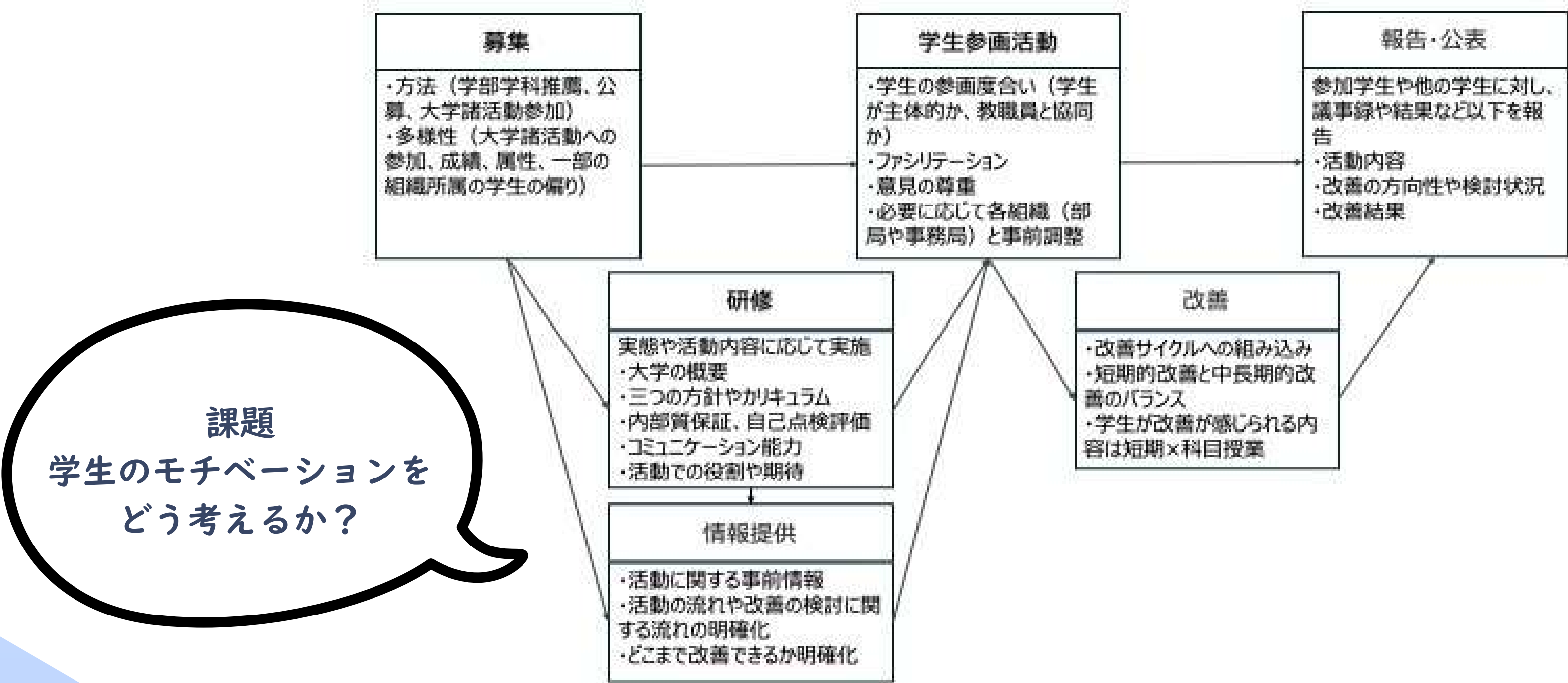
学生参画の効果

大学側からの回答のみであるが、学生とのコミュニケーションや帰属意識といったものが多く見られる。

内容	割合	回答数
教職員とコミュニケーションする機会が増えた	65.71%	23
大学に対する帰属意識が向上した	31.43%	11
大学への積極的関与が増えた	28.57%	10
新しいアイデアが生まれた	25.71%	9
学びに対するモチベーションが向上した	22.86%	8
その他	14.29%	5

学生参画の流れと質保証のための方策や実施すべき点

学生参画活動の基本的な流れの1つのモデルと実施するための方策や工夫点。特に学生参画の学生に対して、改善結果が長期的なのか短期的なのかは学生のモチベーションと合わせて事前に検討が必要



参考文献

- ・公益財団法人大学基準協会（2024）「評価項目・評価の視点（大学）（2024年7月改定）」

https://www.juaa.or.jp/common/docs/accreditation/evaluation_2025/standard_university_03.pdf,2025.7.21閲覧

- ・公益財団法人大学基準協会大学評価研究所・質保証における学生参画のあり方に関する調査研究部会（2024）「質保証における学生参画のあり方に関する調査研究報告書」

<https://www.juaa.or.jp/upload/files/research/laboratory/%E8%B3%AA%E4%BF%9D%E8%A8%BC%E3%81%AB%E3%81%8A%E3%81%91%E3%82%8B%E5%AD%A6%E7%94%9F%E5%8F%82%E7%94%BB%E3%81%AE%E3%81%82%E3%82%8A%E6%96%B9%E3%81%AB%E9%96%A2%E3%81%99%E3%82%8B%E8%AA%BF%E6%9F%BB%E7%A0%94%E7%A9%B6%E5%A0%B1%E5%91%8A%E6%9B%B8.pdf>,2025.7.26閲覧.

- ・公益財団法人高等教育評価機構（2024）「令和7年度 大学機関別認証評価受審のてびき」

https://www.jiheer.or.jp/achievement/guide/pdf/r7_tebiki.pdf.2025.7.21閲覧

- ・田中正弘（2018）「日本の大学における学生参画－質保証への参画を中心として」『大学研究』45,17-30.

- ・中央教育審議会（2018）「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン（答申）」

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1411360.htm,2025.7.26閲覧

- ・山田勉（2021）「学生参加による高等教育の質保証」東信堂.

・Alaniska, H., & Eriksson, S. (2006), Student participation in quality assurance in Finland. In European Association for Quality Assurance in Higher Education (ENQA) (Ed.), Student involvement in the processes of quality assurance agencies, 12-15, Helsinki: ENQA.

・Advance HE (2015) ,ESSENTIAL FRAMEWORKS FOR ENHANCING STUDENT SUCCESS,<https://www.advance-he.ac.uk/sites/default/files/2020-05/Student%20Engagement%20Through%20Partnership%20Framework.pdf>,2025.7.26
閲覧

Healey, M., Flint, A., & Harrington, K (2016) Student as partners: Reflections on conceptual model. Teaching Learning Inquiry 4(2)

自己紹介

山咲 博昭（やまさき ひろあき）

- 奈良女子大学高等教育研究・支援センター 准教授（2025年8月～）
 - 現在、教学企画や大学評価、質保証等の業務に従事している。
 - 専門は高等教育論、組織論、人的資源管理論。博士（政策科学）。
- 関西大学文学部総合人文学科心理学専修卒業（2010年3月卒業）
- 学校法人関西大学 専任事務職員（2010年4月～2019年3月）
 - 学事局教務事務グループ（4年間）
 - **公益財団法人大学基準協会**への出向（2年間）
 - 総合企画室企画管理課（3年間）
 - **自己点検・評価、第3期機関別認証評価等の対応**
- 公立大学法人広島市立大学 教育職員（2019年4月～2025年7月）
 - IR組織や仕組みの構築、大学評価、質保証に係る仕組みの構築・運営
 - **DPの見直しを踏まえた教育の質保証の仕組みの構築・運営（FDの企画立案・実施含む）**



学習者本位の教育への転換

日本の高等教育政策における議論：2000年代以降に見られる

文部省「大学における学生生活の充実方策について」(2000)

- 正課外の観点から「学生中心への大学」への視点変換を求める

中教審「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン」(2018)

- 「学修者本位の教育の実現」と「個々人の可能性を最大限に伸長する教育」への転換を求める
- 学修成果を学修者が実感できる教育を行うこと、このような教育が実施されているかを確認できる質保証の在り方に転換すること

中教審「教学マネジメント指針」(2020)

- グランドデザイン答申を基に具体的な取組イメージが示される

進学率の上昇に伴い、**受け入れ学生の多様化**が進んでいる。

そのため、高等教育政策においても**教員個人の視点転換**に加えて、学部学科等の学位プログラムを運営する**組織レベルでのパラダイムシフト**が求めている。

→学生の状況や学修成果に着目する**学修者本位の教育への転換**

(受け入れ学生の多様化が進むからこそ、学修者視点が重要となる)

学習者本位の教育への転換



①DPに掲げる学修
目標の到達に向け
て**組織的な教育**に
取り組む
→**到達状況の把握**

②学生の**実態を把握**
する学生自らが**気づ**
く機会を設ける学生
の**声を聴取**する
→**学生実態把握**

③学修者視点（意
見聴取等）を踏ま
えた**補正**を行う
→**改善検討・実施**

学生参画型の質保証が求められる背景

取組名	開始年	内容
学生評議員制度 (東北大学) 【マクロ：大学全体】	2021年	学生との直接的な対話を通して相互理解を促進するとともに、学生の意見等を把握して大学運営に反映させることにより、大学の構成員やステークホルダーとのエンゲージメントの深化を図る。学生評議員と教育研究評議会構成員との <u>直接的な対話の場である学生評議員懇談会等</u> を実施し、 <u>学生の声を大学の運営に反映する</u> 。
プログラムレビュー 学生委員(筑波大学) 【ミドル：教育課程】	2020年	学位プログラム毎の点検・評価の機会として、教学マネジメント室に <u>プログラムレビュー委員会を設置し、内部委員、外部委員に加えて、学生委員を含めて実施している</u> 。
カリキュラムコンサルティング(広島市立大学) 【ミドル：教育課程 ミクロ：授業単位】	2021年	卒業予定者を対象に大学4年間の学びを振り返りながら、経験したカリキュラムへのコンサルティング（評価と助言）をお願いする取組

(田中2018、東北大学2024を参考に筆者加筆)

広島市立大学の取組事例「カリキュラム・コンサルティング」



事例報告会

内部質保証の取り組みについて、本協会の評価を受けた大学・短期大学から事例を報告して頂いたイベントです。

【大学】（2024年6月19日）

[▶ 事例報告会（大学）動画](#)

[▶ ① 式次第](#)

[▶ ② 大学基準協会事務局発表資料](#)

[▶ ③ 中央大学事例報告資料](#)

[▶ ④ 東北福祉大学事例報告資料](#)

[▶ ⑤ 広島市立大学事例報告資料](#)

2023年度大学評価結果『長所』

教育課程に対する評価の一環として、「カリキュラム・コンサルティング」を実施し、卒業見込みの学生が授業科目やカリキュラムに対する長所や改善点についてグループワークを行った結果を各学部・学科の担当教員がとりまとめ、「内部質保証委員会専門委員会」に報告することで教育課程の改善につなげる体制を構築している。これによって、授業方法の改善や次のカリキュラム改革に向けた課題を把握・蓄積するとともに、学生が自己の成長を振り返る機会にもなっている。今後は、全学的な教育課程の改善につながることを期待できるため、学生参画による教育の質保証の取り組みとして評価できる。

公立大学法人広島市立大学について

概要

住所：広島県広島市安佐南区大塚東三丁目4番1号

設立：1994年4月1日開学

建学の基本理念

科学と芸術を軸に世界平和と地域に貢献する国際的な大学

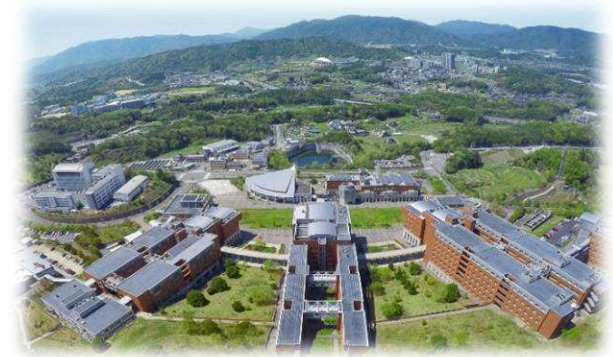
沿革

2010年4月 法人化（広島市から現法人に設置者変更）

2018年4月 国際学生寮「さくら」を開寮

2019年4月 大学院平和学研究科（修士課程）を開設（2021年4月に博士課程を開設）

2024年4月 開学30周年



国際学部／国際学研究科

情報科学部／情報科学研究科

芸術学部／芸術学研究科

平和学研究科

学部数等

学部：3 研究科：4

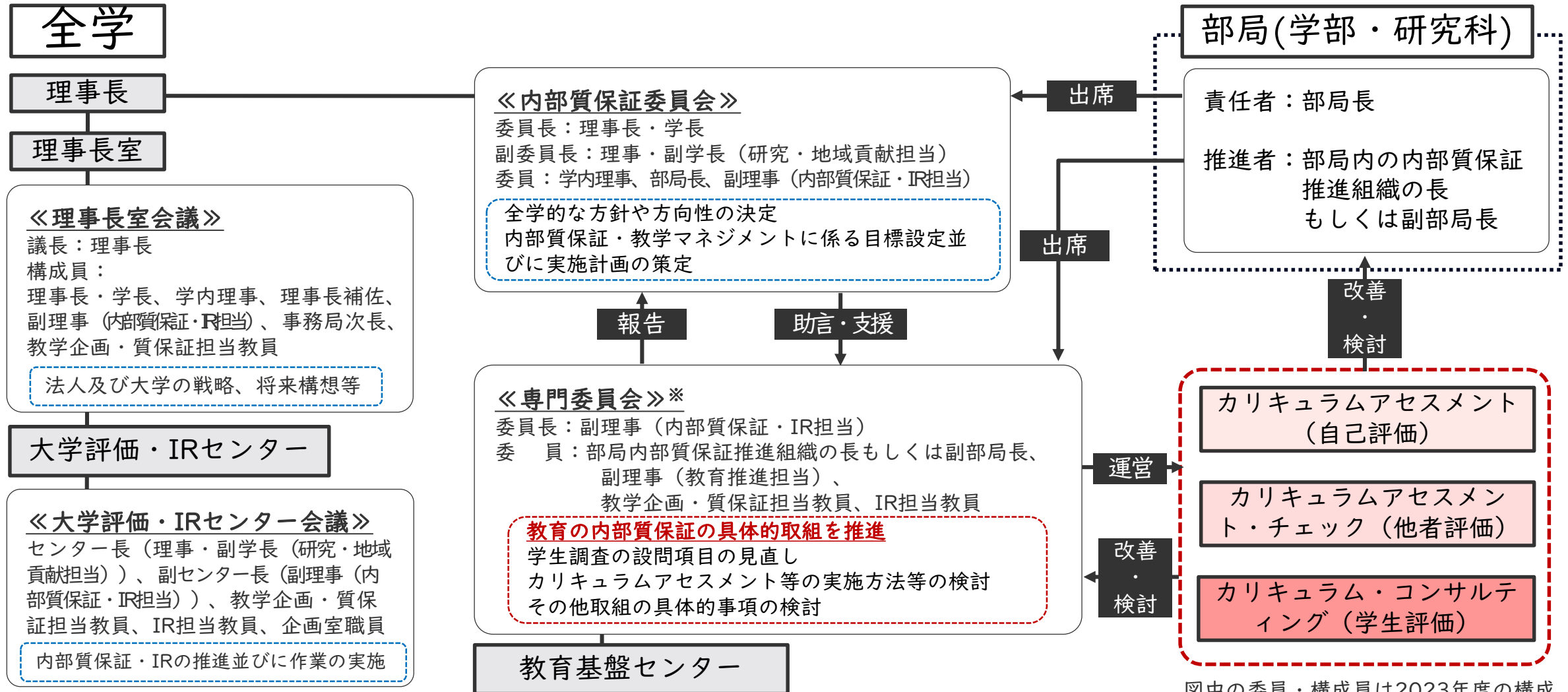
学生数

学部学生1,749人 大学院学生309人

教職員数

教育職員数 197人 事務職員133人 ※2024年5月1日現在の人数

公立大学法人広島市立大学について



図中の委員・構成員は2023年度の構成

※2024年度から教育質保証委員会に改組

広島市立大学の取組事例「カリキュラム・コンサルティング」



2019年度はIR関係の規程等を整備し、学生調査の設計・実施に取り組んだ。

2020年度は「教学マネジメント指針」発出を踏まえて、DPに掲げる学修目標の達成度把握を体系的に行うため、カリキュラムアセスメントの導入に向けたワークショップ型の研修等を実施した。また、カリキュラムアセスメント（教育課程編成・実施者による自己評価）、カリキュラム・コンサルティング（学生評価）を導入・実施した。

2021年度以降は、カリキュラムアセスメントの標準化に向けて、方針・手続きの整備、取組内容の改善等に取り組んでいる。

広島市立大学の取組事例「カリキュラム・コンサルティング」

実施した背景

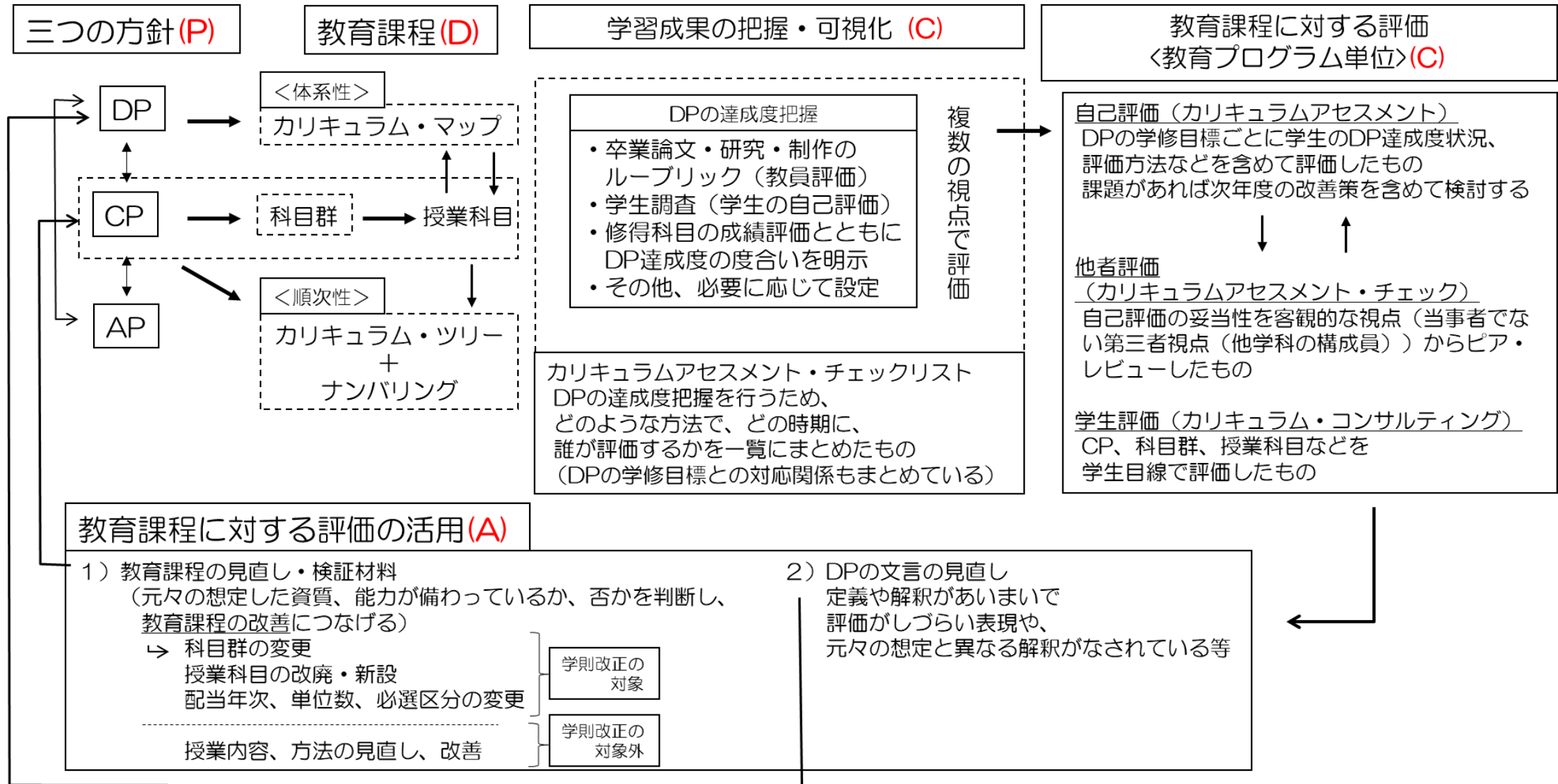
- 2019年度以降、学生調査（新入生、在学生（2・3年次生）、卒業予定者）の自由記述欄（大学に対する要望等）では、問題だと共通認識を持っている事項もあれば、教員、職員目線では気づくことができない、「はっ」とさせられるような問題等が記入されていることがあった。
- 顕在化していない問題や学生の実態を含めて学生の生の声を掬う機会が必要であること、1学年の学部生約430名のきめ細やかな少人数教育を強みとしていることから、学生の意見を聴取するカリキュラム・コンサルティングの導入を検討した。

実施した目的

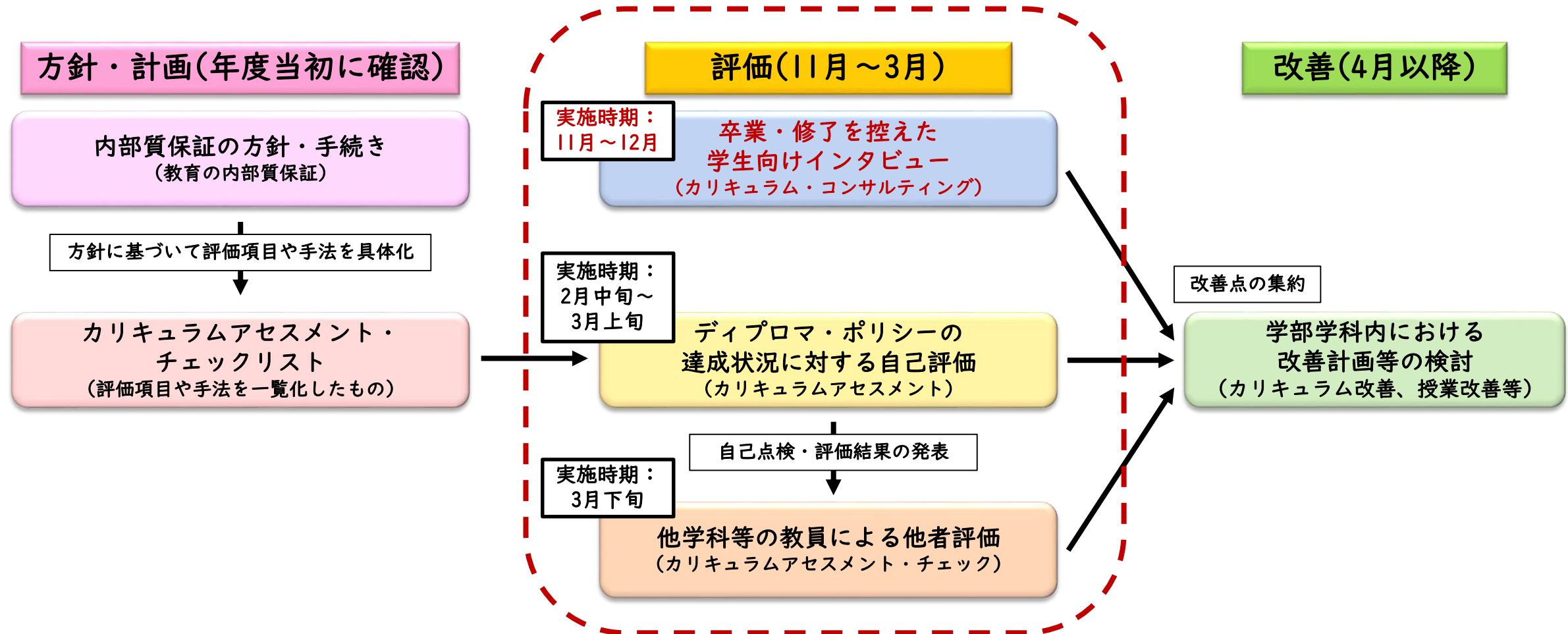
- 学修者本位の教育実現に向けて学修者視点でカリキュラムに対する意見を聴取し、カリキュラムや授業科目の見直しに活かすことや、市大生の実態と教職員が思う市大生との乖離を少しでも縮めるような機会とすることを目指した。

広島市立大学の取組事例「カリキュラム・コンサルティング」

教育の内部質保証（全体像）



広島市立大学の取組事例「カリキュラム・コンサルティング」



広島市立大学の取組事例「カリキュラム・コンサルティング」

カリキュラム・コンサルティングとは…

- 卒業予定者を対象に大学4年間の学びを振り返りながら、経験したカリキュラムへのコンサルティング（評価と助言）をお願いする取組

事前準備のプロセス

- 9月下旬から10月上旬頃に日程調整、実施依頼。
- インタビュアーとして学科から1名以上の教員を選出（自分が所属する学科のカリキュラム・コンサルティングには原則参加しない）。
- 当日使用する物品として、①卒業予定者用のカリキュラム表、②シラバス、③ヒアリング結果を貼るための大きな模造紙、④学生が意見を書くための付箋紙（青、赤色）などを用意。
- 参加学生の選定は所属する学科が実施。呼びかけは、原則**各学科・専攻の全学生、卒業予定者数の25～50%**の範囲で選出。

広島市立大学の取組事例「カリキュラム・コンサルティング」

当日の進め方

- 4～6名のグループに分かれて、配布資料（入学年度の科目一覧）やシラバス等を参考に「よかった点」「改善したほうがよいと思う点」を個人でブレストしグループで集約する。実施時間は**60分程度**。
 - 一つの意見に対してグループで同意できる人の数を集計する。
 - 先生個人への誹謗中傷は避ける。
 - 「改善したほうがよいと思う点」は簡単な理由と、自分なりの改善方法を思いつく範囲で書いてもらう。
 - 発言をしやすいように所属学科教員は当日進行に関与しない。

カリキュラム・コンサルティング 個人ワーク

説明用資料

(1)～(4)の質問項目について、
よかった点を青色の付箋紙に書いてください。

- ・ **付箋紙**一枚につき、**ひとつの項目**を書いてください。
- ・ **ひとつの質問項目**につき、**一人3枚程度**書いてください。
- ・ **簡単な理由**も合わせて書いてください。

(2) ○○概論

制作した課題に対して、先生が丁寧にフィードバックをしてくれたため、次の制作のときに変えていくことができた

質問項目

- (1) 全学共通系科目、外国語系科目
- (2) 専門基礎科目、専門科目
- (3) オンライン授業(2021・22年度)**
- (4) 大学での学生生活

例) ○○実験では、レポートを丁寧に添削してくれたので、レポート作成能力がついた

例) ○○概論では、制作した課題に対して、先生が丁寧にフィードバックをしてくれたため、次の制作のときに変えていくことができた

カリキュラム・コンサルティング 個人ワーク

説明用資料

(1)～(4)の質問項目について、
改善したほうが良いと思う点を赤色の付箋紙に書いてください。

(2) ○○概論

「○○概論」と「○○論」の授業の順だとわかりにくい。なので、科目の受ける順番を変えてはどうか。

- ・ **付箋紙一枚**につき、**ひとつの項目**を書いてください。
- ・ **ひとつの質問項目**につき、**一人3枚程度**書いてください。
- ・ **簡単な理由**も合わせて書いてください。
- ・ 改善したほうが良いと思う点に対する**皆さんなりの解決策**も書いてください。

「○○が悪い」だけではなく、「どうすれば良くなる」という観点で書いてください。

例) 「○○概論」と「○○論」の授業の順だとわかりにくい。なので、科目の受ける順番を変えてはどうか。 など

質問項目

- (1) 全学共通系科目、外国語系科目
- (2) 専門基礎科目、専門科目
- (3) オンライン授業(2021・22年度)**
- (4) 大学での学生生活

カリキュラム・コンサルティング グループワーク

説明用資料

1 グループニング

グループ内で話し合って、同じ内容の付箋紙があれば重ねてまとめてください。違うと思うものは別々のままにします。

2 集計

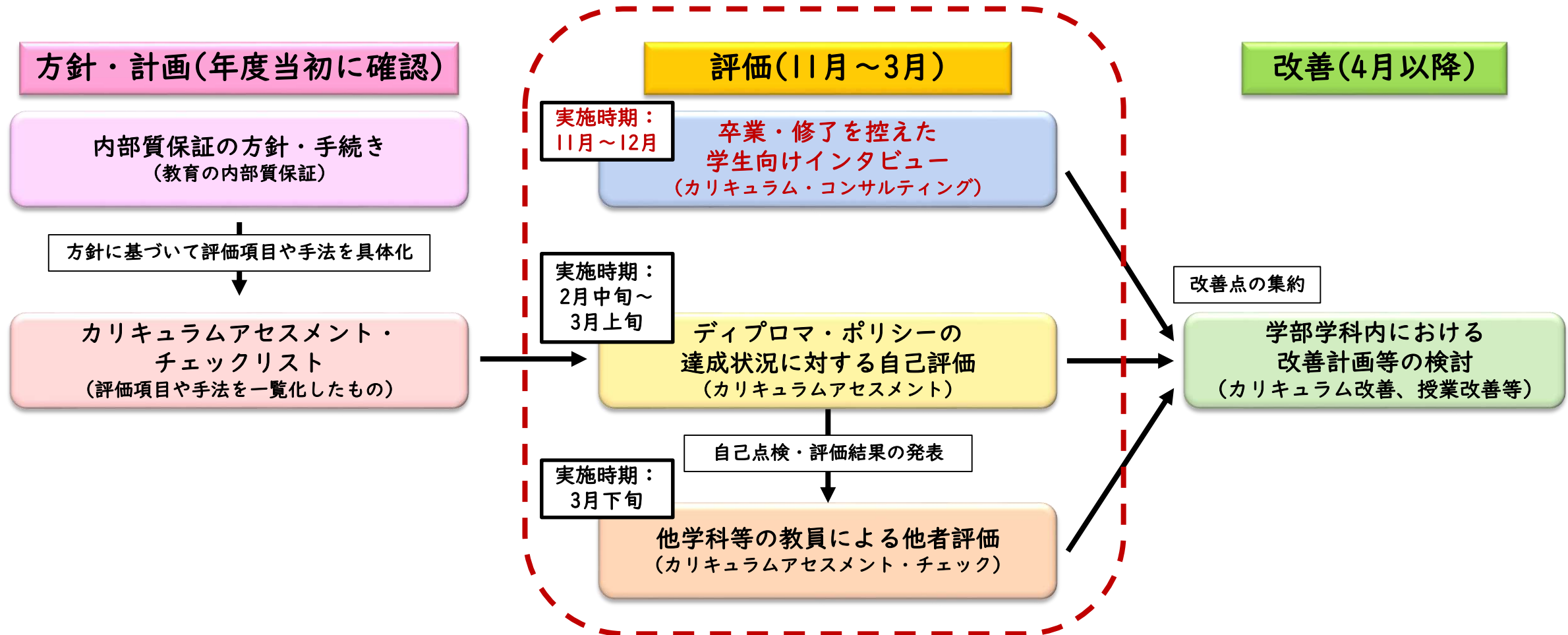
まとめた付箋紙の内容をグループで共有して、同じ意見なら挙手してその数を集計してください。例えば、5人中3人が同意した場合、3／5と付箋紙の表に記入してください。

(2) ○○概論

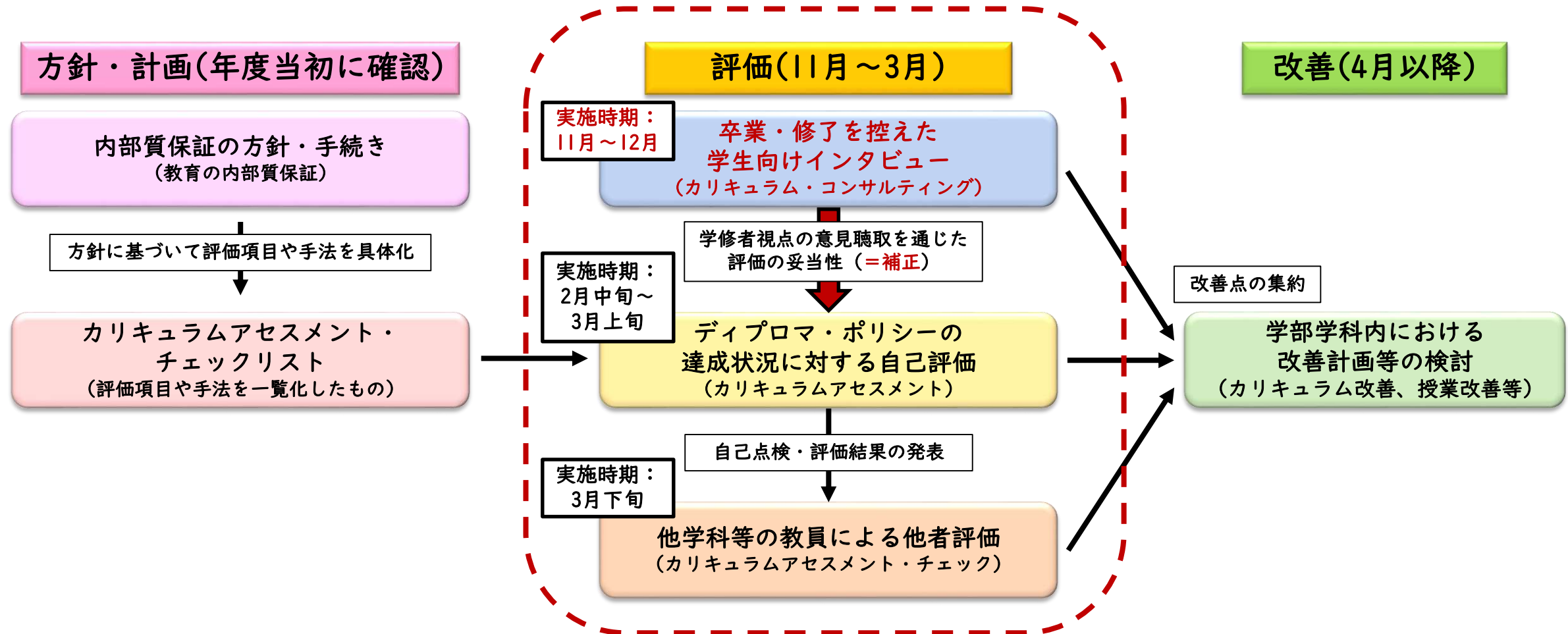
制作した課題に対して、先生が丁寧にフィードバックをしてくれたため、次の制作のときに変えていくことができた

3 / 5

【再掲】 広島市立大学の取組事例「カリキュラム・コンサルティング」



【再掲】 広島市立大学の取組事例「カリキュラム・コンサルティング」



広島市立大学の取組事例「カリキュラム・コンサルティング」

活用と改善

- 【長期】カリキュラムの再編時まで蓄積し、改訂検討時に活用する。
- 【中期】配当年次や授業科目の一部見直し等の至急対応が必要なものの等は改訂。
- 【短期】学則での改正等が不要な授業内容、方法等に対する意見を参照し改善。

教育課程に対する評価の活用(A)

1) 教育課程の見直し・検証材料

(元々の想定した資質、能力が備わっているか、否かを判断し、教育課程の改善につなげる)

⇒ 科目群の変更

授業科目の改廃・新設

配当年次、単位数、必修区分の変更

学則改正の
対象

授業内容、方法の見直し、改善

学則改正の
対象外

広島市立大学の取組事例「カリキュラム・コンサルティング」

授業評価アンケートとカリキュラム・コンサルティングとの違い

- 授業評価アンケート
 - 個々の授業終了時点で決まった設問項目並びに自由記述に対して回答する
- カリキュラム・コンサルティング
 - 大学生活4年間で経験したカリキュラムを通じて何らかの理由から印象に残る授業科目がを選択し、回答している
 - ひとつ一つの授業科目に限定せず、授業の順序性や授業内容の重複等の課題も顕在化するとともに、4年間の授業経験を通じて卒業研究等にどのような授業科目等が寄与したのかを生の声として掬うことができる
 - 学生自身が自らの4年間の学びを振り返る機会となるとともに、同一のカリキュラムを経験した他者との比較（捉え方違い等）から自らの特性に気づく機会にもなる。
- 授業終了時点での一科目と、4年間のカリキュラムを経験した時点では、異なる視点からの学生視点での評価を得られる。

まとめ

- 教員、職員視点だけでは学修者との捉え方に差異が生じる恐れがあるため、**学生の声を掬う機会を設ける**ことで学修者視点を取り入れた。
- 学修者の視点でしか見えない**問題点の顕在化や改善策の検討**を行うことができた。

A young deer with light brown fur and small antlers stands in a grassy field. The deer is looking upwards and to the right. In the background, there are green trees, a white house, and a red and white striped traffic cone. A blue semi-transparent banner is overlaid across the middle of the image.

ご清聴ありがとうございました。